令和６年度　長期研修中間発表
R6.12.12（木）

知的障がいを有する生徒が
主体的に学ぶ自立活動の取り組みを探る

島根教育センター　浜田教育センター
特別支援教育　長期研修員　塩満由梨
（島根県立石見養護学校）

1　研修の背景

2　授業実践

3　授業実践の検証

Ⅰ　研修の背景

研修の動機　目的　仮説　研修計画

①自立活動をどうやって進めたらよいか

どんな生徒？

目標や活動内容はどうしよう？

どんな支援が必要かな？

教科書はない

オーダーメイドの授業

②生徒が主体的に授業に参加するためにはどうしたらよいか

めんどくさい

だるい

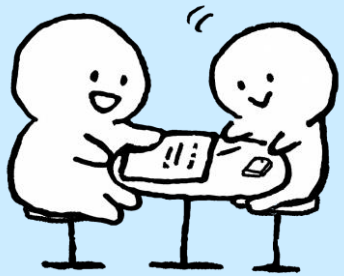
自分は関係ない

やらない

生徒の気持ち分からない

授業に向かうことが難しい

③自立活動の学習を日常生活や学習場面で生かせるのか



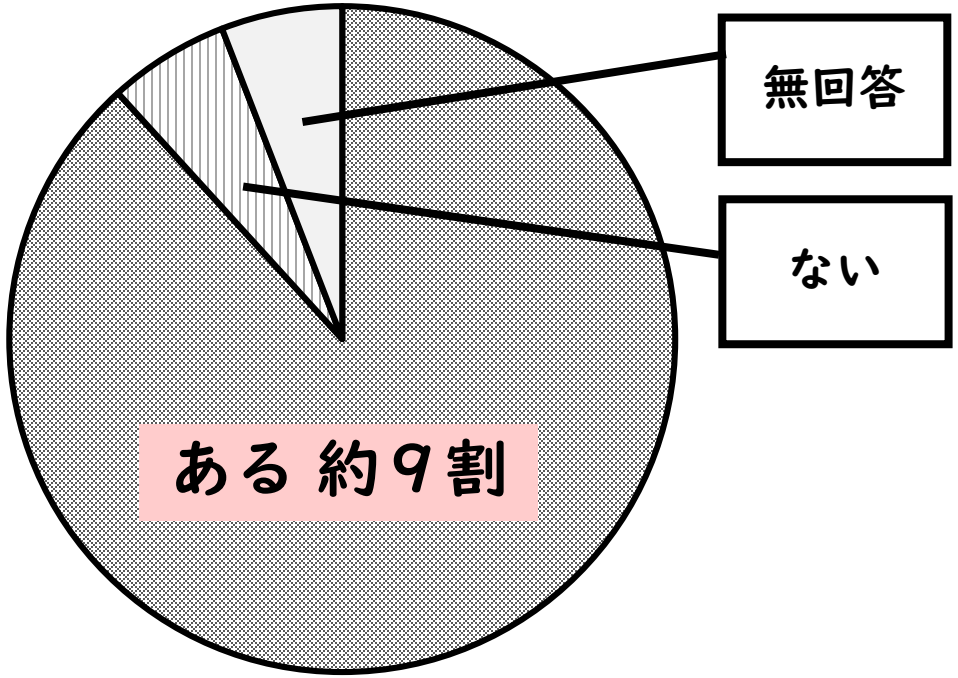
こういうときは〇〇したらいい

できると思う

分かっているはず…

場面が変わるとできない

自立活動で「心理的安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」を中心課題とする児童生徒の授業で難しさを感じたり、困ったりしたことはありますか（全体/ｎ＝17）



生徒との関係性

教員間の情報共有

目標設定・達成目安

活動内容の設定

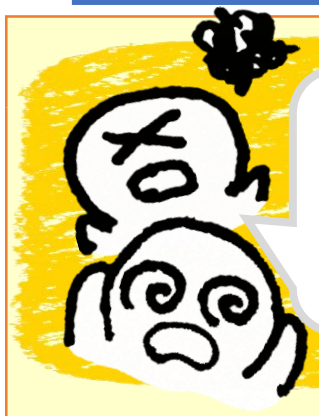
日常への汎化

自立活動の内容（６区分２７項目）

1　健康の保持	（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 （2）病気の状態の理解と生活管理に関すること。 （3）身体各部の状態の理解と養護に関すること。 （4）障害の特性の理解と生活環境の調整関すること。 （5）健康状態の維持・改善に関すること。
2　心理的な安定	（1）情緒の安定に関すること。 （2）状況の理解と変化への対応に関すること。 （3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
3　人間関係の形成	（1）他者とのかかわりの基盤に関すること。 （2）他者の意図や感情の理解に関すること。 （3）自己の理解と行動の調整に関すること。 （4）集団への参加の基盤に関すること。
4　環境の把握	（1）保有する感覚の活用に関すること。 （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 （4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 （5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
5　身体の動き	（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 （2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 （3）日常生活に必要な基本的動作に関すること。 （4）身体の移動能力に関すること。 （5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6　コミュニケーション	（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 （2）言語の需要と表出に関すること。 （3）言語の形成と活用に関すること。 （4）コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること。 （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること。

目的

自立活動で学んだことを日常生活や学習場面で生かすことを目指し、主体的に学ぶ自立活動の在り方を探る



・得た知識や技能が断片的になりやすい
・実際の生活の中で生かすことが難しい

実際の生活場面に即して学習

繰り返し学習

主体的に活動

継続的・段階的な指導で身につく

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）」文部科学省 2018年3月30日

セルフアドボカシー

「事例で学ぶ発達障害者のセルフアドボカシー「合理的配慮」の時代をたくましく生きるための理論と実践」片岡美華 小島道生 2017年9月29日

自立活動でねらいたい、主体的な姿
①生徒が活動する
②考えたことなどを生徒が伝える
自立活動を考える

仮説

自立活動において、教材や環境設定の工夫、目的を明確化し、興味関心のある内容を取り入れることで、生徒の主体的な姿を引き出すことができるようになるのではないか

1　教材
分かりやすい教材を使用する

2　環境設定
安心して活動に参加できる環境設定や人間関係の配慮をする

3　目的の明確化
授業でどんなことを行うか分かるように、目的を伝える

4　興味関心
好きなことや得意なこと、興味関心のある内容を用いる

主体的な姿を引き出す４つの視点

①生徒が活動する ②考えたことなどを生徒が伝える姿を引き出せる

授業実践に向けて

・対象生徒Aの実態把握
（担任からの聞き取り、自立活動シート作成
授業観察、生徒Aの話）

授業実践

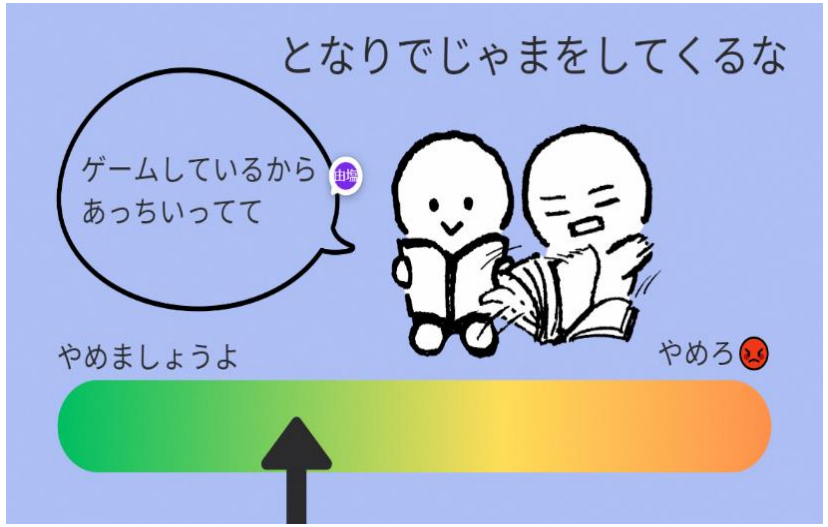
高等部の自立活動
・授業実践Ⅰ（７月実施/生徒A対象の個別）
・授業実践Ⅱ（９月実施/生徒A対象の集団）

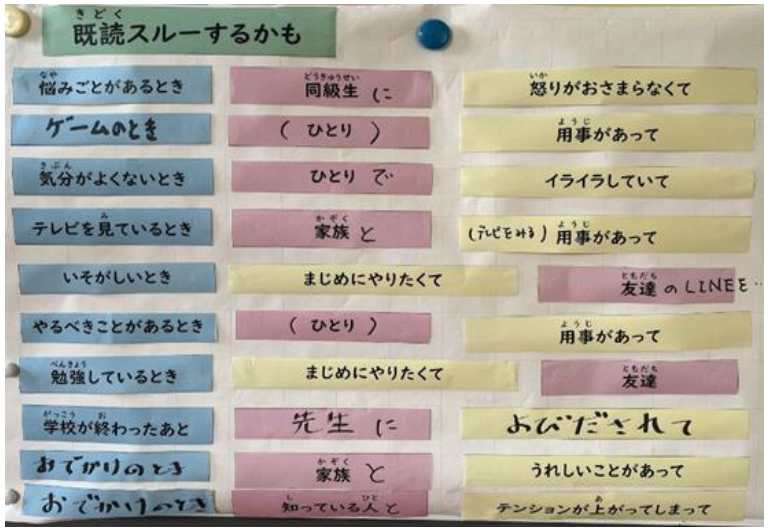
検証

・授業実践の振り返り
・生徒を対象としたアンケートを実施する

2　授業実践

対象生徒の実態把握　ランキングの使い方　ランキングを使った授業実践





①担任への聞き取り、②自立活動シート、③授業観察、④生徒Aの話から実態把握

担任

①担任への聞き取り
- 何度も同じ指導や学習を繰り返さないといけない
- 生徒Aの自己肯定感が低く、褒めても伝わらない

②自立活動シート

中心的課題は
「友達とのかかわり」

②授業観察

担任との関係は良好
思ったことを言える

①②③④の
実態把握から

３人間関係の形成
（１）他者とのかかわりの基盤に関すること

自立活動を行う

生徒A

④生徒Aの話
- ○友達と話すことが好き
- ○学習していることを意識している
- △できないこともある
- △自分から伝えることは苦手

静岡大学教育学部 学校教育講座　塩田真吾 准教授「カード分類比較法」

カード型の教材を使用した、他者との考えの相違点を明確にすることのできる教材

テーマに沿って自分のランキングを決める

されたら嫌な行動ランキング

自分

相手

相手のランキングと比較をすることで、順位が同じもの・違うものが見て分かる

ランキングを比較する、話すことで、お互いの違いに気づける

個別の自立活動

【ねらい】

●自分と教員の気持ちや考え方は違うことを知る

●教員の気持ちや思いを受け入れようとする

【授業の流れ】

①教員のランキングを予想する

②予想したものと実際を比較する

③気になるランキングの理由を聞く

集団の自立活動

【ねらい】

●自分と友達の考え方の違いについて知る

●自分にない考え方について知る

【授業の流れ】

①自分のランキングを決めた後にペア活動をする

②ペア活動では１・６位のランキング理由を伝え合う

③全体で共有する　　※同じ流れを３回実施した

３　授業実践の検証

ランキングの成果と課題　今後に向けて

1　教材

〇分かりやすい
⇒自分の考えをもつことができた
⇒生徒で進めることができた
〇やり直しできる
⇒納得するまで思考していた
〇比較しやすい
⇒自分と他者の違いに気づいた

2　環境設定

〇ペア活動
⇒自分から質問していた
⇒自分の経験から話をしていた
⇒ランキングが一緒でも、
　理由や気持ちは違うことに気づいた
〇教員とペア
⇒教員に援助依頼をしていた

3　目的の明確化

〇授業のねらいを伝える
⇒自分の考えをもつことができた
⇒自分の考えを明確に相手に
　伝えていた
⇒相手の話を最後まで聞いていた

4　興味関心

〇生徒同士の活動
⇒友達の話に共感していた
⇒友達の知らない一面を知る
　ことができた
⇒新たな考え方を知ることが
　できた

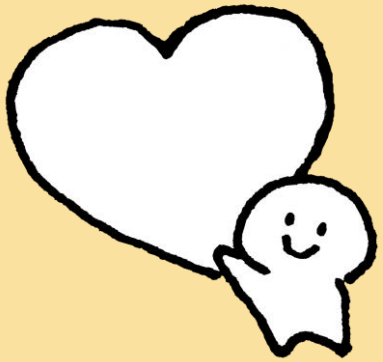
①<u>生徒が活動する</u> ②<u>考えたことなどを生徒が伝える</u>ことができた

1　教材

△比較の先
⇒比較することで、相手の立場や
　気持ちを想像することは難しい
△経験の有無
⇒自分の経験していないことを
　考えることは難しい

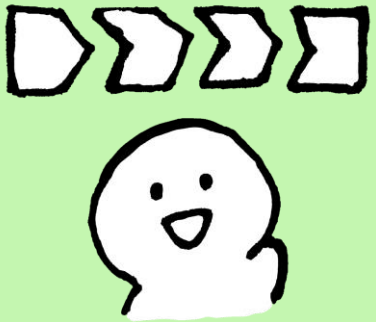
2　環境設定

△生徒同士の活動
⇒何度も質問をするやりとりは
　生徒同士だと難しい
△担任とペア活動
⇒生徒の主張が強くなる
⇒相手の考えを受け止めにくい



3　目的の明確化

△特になし



4　興味関心

△特になし

【教材の限界】
・相手の立場や気持ちなどの曖昧な部分は、ランキングでは想像することが難しい

⇒曖昧なものは生徒のペースで考えることのできる個別の時間を確保していく

【環境設定の必要性】
・友達との関係性

⇒友達とのやりとりを集団の時間で確保する
⇒人間関係への配慮が必要

【教員のかかわり】
・教員には自分を理解してほしい気持ちが強い

⇒教員が生徒の気持ちに共感する

1　授業実践の振り返り
　①　４つの視点が適当か検証
　②　授業計画（実践例や活動内容の整理）を考える

2　生徒を対象としたアンケートを実施

今後の研修で行う

ご清聴ありがとうございました